日本共産党掛川市議会議員
勝川志保子・掛川市塩町3-7
☎22-1325・FAX22-3883・Eメール sihoko@mbr.nifty.com

しほこ通信

NO.346
2024.12.11
勝川しほこ 検索

部活動の改革は様々なアプローチがある

中学校部活動を、教育活動から外して、平日も含めて一気に地域移行させるという掛川型の移行が全国で推進されているのか、というとそういうわけではありません。国は休日の地域移行をモデル事業として進めていますが、平日まで含めた移行で教育活動から外してしまう推進には至っていません。

熊本市は、掛川市と同様の移行を計画していましたが、実施を見送りました。人材バンクを立ち上げ、指導者を雇って市が報酬を支払い、教育委員会の管理下での部活動を継続させます。少子化で一校では継続が難しい所は市の責任で拠点校を設けて一体化します。

隣りの菊川市は4年後をめざし体制が整った種目から段階的に休日の移行を進める計画です。休日限定の移行なので、教育委員会が部活動に今までどおり責任を持ち続けるという事です。休日部活と平日部活の二刀流も推奨しています。

中体連なども一緒に行なっている菊川とちがうスケジュールで学校活動から切り離したとき、掛川の子どもたちが大会など問題なく参加できるのかも心配です。

学校の放課後に部活動があるのと、夜間も含め自己責任でお金を払って習い事のように地域のクラブに通うのとでは、物理的にも経済的にも負担が少ないのは誰が考えても前者です。掛川型は参加する子どもが減ることを前提に、子どもの文化スポーツ参加の権利を自己責任にする改革ともいえます。

計画は教育委員会が出していますが、移行完了すれば教育委員会は手を引く。市民責任になる決定を市民みんなでGOを出していないところが疑問なのです。

小笠山に風力発電（4,200kW×2基）

入山瀬にコスモエコパワー（コスモ子会社）が建設予定の風力発電工事の説明を聞きに行きました。県のアセスが義務づけられる規模でもなく、地元の了承も取れている事業ですが、小笠山という自然度の高い場所に山頂から見上げる位置に高さ169メートル、羽の直径117mの巨大風車2基が立ちます。

残土38,000m³は防潮堤工事の盛土にもなります。大規模開発です。市の条例に則って、災害の誘発や公害、環境破壊にならないか後々までしっかりと監視してほしいし、再生可能エネルギーが山を大規模に削ってつくられることに釈然としない思いがあります。

中電からは送電の空きがないとの理由で最大25%程度の出力が抑制され、買い取り価格が高いため、地域電力の報徳パワーは買い取れません。国のエネルギー政策はおかしい。すぐに工事が始まり、運転は3年後の予定です。西大谷周辺はダンプが行き交うことになります。

市道の認定に疑問

新しく住宅地ができ、家が建つと、市道として認定していきます。大井議員は現地を見て、境界線部分が食い込んでいたり、停止線がなく危険な交差点を認定してしまうことが疑問だという意見を一月定例会の環境産業委員会で述べ議案に反対しました。

市内には、調整池もなく、許可もいらない小規模開発が重なって危険な細い道が通学路になっている箇所、排水が追いつかず、雨の度に水があふれる箇所もあります。

災害や事故を未然に防ぐためには、民間任せは危ない。公の目を光らせないと、と思います。

学校がなくなる

原田小学校が今年度限りで閉校になる条例改正が提出されています。複式学級を避けるため原谷小との統廃合となりますが、原野谷地区に一貫校ができればまた子どもは学校が変わる事になります。

原谷の学童は手狭で、学童保育は原田までバスで帰ります。子どもの人間関係などが二の次になっていないかと心配でなりません。

原田小は体育館やグラウンドの解放もなくなります。地域のメリットはあるのでしょうか。

日坂小・東山口小も統廃合のための準備に入っています。大東地区では城東中学校区の再編が進められています。学校がなくなった地域のさらなる過疎化、人口流出が進むことが私は心配です。

光のオブジェ展
はじまりました
1/24（金）まで